

平成24年6月19日

各 位

会 社 名 株式会社サンオータス
 代表取締役社長 北 野 俊
 (J A S D A Q コード番号: 7623)

問 い 合 せ 先
 常務取締役管理本部長 古川 晴 男
 TEL(045)473-1211 (代表)

平成24年4月期業績（連結・個別）の通期業績予想との差異に関するお知らせ

平成24年4月期（平成23年5月1日から平成24年4月30日まで）の業績につきまして、平成24年3月15日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました通期業績予想との差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成24年4月期通期連結業績予想との差異等

(1) 通期(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 公 表 予 想 (A)	34,800百万円	100百万円	100百万円	20百万円	6円29銭
今 回 公 表 実 績 (B)	34,797百万円	161百万円	178百万円	46百万円	14円75銭
差 異 (B) - (A)	△3百万円	61百万円	78百万円	26百万円	—
差 異 率	△0.0%	61.9%	78.0%	134.7%	—
(ご参考) 前期実績(平成23年4月期)	31,652百万円	314百万円	280百万円	126百万円	39円90銭

(2) 差異の理由

連結売上高については、石油製品販売部門では、主力商品であるガソリンの販売数量は震災直後の大幅な需要後退の影響により計画を下回りましたが、大口需要家向けの軽油及び灯油の販売数量が計画どおりとなったこと及び期を通じて原油価格が高値圏で推移したことにより燃料油全般の販売単価が期初予想を上回ったため、通期では予想どおりとなりました。

自動車販売部門では、当社グループが運営するBMW車を中心とする輸入車販売は、ブランド間の競合が激しく、引き続き苦戦を強いられました。各ブランドで投入された新車種の販売に注力するとともに、平成23年12月からはプジョー車の販売に参入し販売チャネルの拡大に傾注した結果、新車販売台数は前年実績を上回り、中古車販売及び整備等も堅調に推移し、カービジネス全般でも計画どおりとなりました。

その結果、当期の当社グループの連結売上高は34,797百万円（前年度比3,145百万円増加）となり、予想どおりとなりました。

利益面では、石油製品販売部門ではSS(サービスステーション)間の価格競争は依然として激しく、原油価格の上昇等により仕入価格の変動が激しかったことも加わって、マージン確保が難しい

営業を強いられました結果、利益面では終始厳しい状況下に置かれました。

自動車販売部門でも、ディーラー間の価格競争は厳しい状況に終始しましたが、マージンの確保や販売経費の圧縮に努め、ほぼ通期予想値を確保しました。

また、特に下半期において、グループを挙げての経費削減に取り組んだ効果もあり、営業利益は161百万円、経常利益は178百万円となり、それぞれ予想を上回りました。

当期純利益は、固定資産除却損失等特別損失の計上と法人税等調整額の減少等により46百万円となり、通期予想に対し26百万円上回る差異が生じました。

2. 平成24年4月期通期個別業績予想との差異等

(1) 通期(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想(A)	20,000百万円	△220百万円	△10百万円	△40百万円	△12円57銭
今回公表実績(B)	19,577百万円	△183百万円	28百万円	△11百万円	△3円52銭
差異(B)－(A)	△423百万円	37百万円	38百万円	28百万円	－
差異率	△2.1%	－	－	－	－
(ご参考) ----- 前期実績(平成23年4月期)	17,692百万円	△31百万円	143百万円	112百万円	35円45銭

(2) 差異の理由

売上高については、石油製品販売部門において、大口需要家向け軽油・灯油販売数量が増加したこと及び原油価格の上昇にともなって、燃料油全般の販売単価が期初予想を上回ったため通期予想どおりとなりました。

輸入車販売部門においては、新たにプジョー車販売を開始し、一定の成果を得ましたが、既存ブランドであるジャガー車の販売が低調に終わりました。

その結果、売上高は19,577百万円となり、通期予想を423百万円下回りました。

利益面においては、フォード車販売部門では業務運営効率化により利益確保を実現しました。

一方、石油製品販売部門の価格競争は依然として厳しく、利鞘の縮小を強いられたほか、SS(サービスステーション)でのガソリン販売数量が予想の範囲を超えて落ち込んだため、大口需要家向け軽油・灯油の販売数量の確保により、販売利鞘を確保できたこと、環境車検部門が取り組んでいる自動車エンジン洗浄機の販売が軌道に乗ってきたこと等により、183百万円の営業損失を計上しましたが、予想に対して改善しました。

経常利益は、受取手数料等の営業外収入が予想を上回り、営業損失をカバーして28百万円を計上し、予想との差異が生じました。

その結果当期純利益は、予想に対し改善したものの、11百万円の損失となり差異が生じました。

以上